

2017年度 世田谷プラットフォーム 中長期計画に関する進捗状況並びに評価について

I. 総合評価

評価※	理由
B	<p>2017年10月20日に世田谷区、国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、成城大学、東京都市大学、東京農業大学の7団体において包括協定が締結され、世田谷プラットフォーム（以下、世田谷PF）発足している。また、協議会並びに協議部会、各取組みに対応する各部会が設置されるなど運営体制も構築されている。</p> <p>2017年度は中長期計画を策定することを目標に取組みを行い、年度内に世田谷PF中長期計画の検討がなされ完成している。また、幾つかの取組みについては先行的に実施されているが、産業界等との連携体制が構築されていないなどの課題も残っている。</p> <p>これらの状況を踏まえて、概ね良好な状態とし、評価をBとしている。</p>

※ 評価はA～Dの4段階評価

A：中長期計画の進捗状況や各取組みの成果が極めて良好な状態

B：中長期計画の進捗状況や各取組みの成果が概ね良好な状態

C：中長期計画の進捗状況や各取組みの成果が悪く、改善が必要な状態

D：中長期計画の進捗状況や各取組みの成果が非常に悪く、見直しが必要な状態

II. 総評

① 現状の説明

世田谷6大学コンソーシアムの構成大学が中心となり、2017年9月26日より協議部会が設置され、プラットフォームの発足に向けて協議が重ねられている。2017年10月20日には世田谷区、国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、成城大学、東京都市大学、東京農業大学の7団体において包括協定が締結され、世田谷PFが発足している。

世田谷PFのビジョンとして、1.【文化・芸術・教育】、2.【地域活性】、3.【産業】、4.【国際化】、5.【大学等の連携】の5つが掲げられ、ホームページで広く周知されている。また、各ビジョンに対する中長期計画が年度末に完成している。

運営体制としては、7団体の代表者で構成される協議会、大学の代表者のみで構成される協議部会、各取組みに対応する各部会からなっており、事業を展開するための体制が構成されつつある。2017年度の取組みを見ると、決議機関である協議会は5回開催されており、また全体を調整する協議部会も7回開催されるなど、頻繁に開催されている。部会は、FD・SD部会、リスクマネジメント部会、入試広報部会、IR部会、学生プロジェクト部会、キャリア部会、ホームページ部会からなり、各部会において各取組みがなされている。

② 長所・特徴

➤ 世田谷区と様々な学術分野を持つ6大学が集まり、プラットフォームを形成しており、幅広い取組みが期待できる。また、世田谷区の活性化だけではなく、世田谷区と交流のある地方自治体にも視点が置かれている。

➤ 世田谷PFのホームページが設けられており、幅広く情報を発信している。また、ホームページ部会が備わっており、ホームページの運営体制も備わっている。

- ▶ 数値目標を伴う中長期計画が策定され、取組みの評価基準が定まっている。また、数値目標の情報収集を行う IR 部会が備わっており、評価を行うための体制が構築されている。

### ③ 課題・問題点

- ▶ 運営体制は設けられているものの、意思決定の体制図など、各機能の役割分担などが曖昧なため、明確にしておく必要がある。
- ▶ 世田谷 PF の運営資金が各大学等に委ねられているため、各大学から運営資金を集めるなどの予算措置が必要である。
- ▶ 新しい試みなどについては、中長期計画の数値目標に紐づかない取組みもあるため、中長期計画の見直しが必要である。

### ④ まとめ

世田谷 PF が発足して半年という短い期間でありながら、多くの協議が重ねられ、中長期計画を策定していることは評価できる。ただし、初年度ということもあり、実質的な取組み内容は少なかつたため、今後の取組みに期待したい。

また、新しい試みなどについては、中長期計画の数値目標に紐づかない取組みもあるため、中長期計画の見直しを行いながら各取組結果を可視化できるようにすることが望まれる。

## III. 個別評価

### 1. 【文化・芸術・教育】の評価

#### ① 現状の説明

【文化・芸術・教育】では「世田谷の歴史・文化・芸術への理解・関心を高めるとともに、世田谷区内にある大学の教育リソースを提供することで学びの場である地域の好感度醸成を図り、世田谷ブランドの向上を目指す。」ことをビジョンに掲げている。

このビジョンに対する取組み内容として、公開講座などによる「高等教育の提供」や「区内小中学校等への教育活動支援」、「乳幼児及び保護者への支援の推進」、「障がい者支援の推進」を行うことにしている。

2017 年度の取組みは年度途中からではあるが、公開講座の提供や教育支援活動などの一部が実施されている。

#### ② 長所・特徴

- ▶ 特徴のある 6 つの大学でプラットフォームが形成されているため、広範囲の学術分野をカバーした取組みが可能である。
- ▶ 先行して取り組まれている「せたがや e カレッジ」という e-Learning システムを保有しており、講座提供を行っている。
- ▶ 「世田谷区大学生ボランティアによる区内小・中学校等への教育活動支援」については、世田谷区教育委員会事務局に受け入れ体制が備わっている。

#### ③ 課題・問題点

- ▶ 中長期計画は策定されたものの、個別の課題に対して、どの大学が対応するのかなど、細かな点について定まっていないため、更なる具体化が必要である。
- ▶ 学術分野やより多くの取組みを展開するためにも、6 大学以外の大学の参画が望まれ

る。

④ まとめ

【文化・芸術・教育】のビジョンを達成するための取組みを一部進めるとともに、中長期計画を策定することができている。しかしながら、個別の課題に対してどのように対応していくか、あるいは現状の参画大学だけでは取組みが難しい課題などもあるため、今後の進展に期待したい。

2. 【地域活性】の評価

① 現状の説明

【地域活性】では「地域課題の解決や地域振興に向けた支援体制を構築し、『安心安全に暮らし、学び、遊べる町“世田谷”』の実現を目指す。」ことをビジョンに掲げている。

このビジョンに対する取組み内容としては、「地域振興・交流イベントの推進」や「防災教育の推進」を行うことにしている。

2017年度については、中長期計画を策定している。

② 長所・特徴

- 世田谷区内の各地域に概ね各大学が設置されており、各地域において地域振興等の取組みが行われている。
- 国士舘大学では防災の取組みが積極的に行われており、これらの取組みを各大学等にも波及させることで、防災教育の推進を図ることができる。

③ 課題・問題点

- 中長期計画は策定されたものの、具体的な細かな点について定まっていないため、更なる具体化が必要である。
- より多くの地域に対応するため、より多くの大学等の参画が望まれる。

④ まとめ

【地域活性】のビジョンを達成するための中長期計画を策定することができていることは評価できるが、より具体的な取組みに繋げていく必要があるため、今後の取組みに期待したい。

3. 【産業】の評価

① 現状の説明

【産業】では「産学官の連携体制を構築し、新たな商品開発や区内における就労及び起業の促進をはかり、区内産業の活性化を目指す。」ことをビジョンに掲げている。

このビジョンに対する取組み内容としては、「企業との連携推進」を行うことにしている。

2017年度については、世田谷PFに参画いただける企業等を模索したが、参画いただける企業等が見つからなかった。区内への就業者数を増やす取組みとして、東京商工会議所世田谷支部と連携して「世田谷区の就職セミナー」を開催している。また、区内の企業ではないが丸善雄松堂株式会社と大日本印刷株式会社が協力企業として登録している。

② 長所・特徴

- 世田谷 PF に参画する企業等は定まっていないが、東京商工会議所世田谷支部と連携した取組みが試験的に実施されている。現段階では、区内への就業者数を増やす取組みにとどまっているが、今後の発展に期待できる。

③ 課題・問題点

- 現段階ではビジョンの中に記載されている「新たな商品開発や起業の促進を達成する」ための取組み内容には至っていないため、世田谷 PF に参画する企業等を増やすなどを行い、取組み内容を増やしていく必要がある。
- 「世田谷区の就職セミナー」などの活動を行っているが、その実績が指標に定められていないため、指標の見直しを行うなどし、可視化できるようにする必要がある。

④ まとめ

世田谷 PF に参画する企業等が見つからない中で、中長期計画が策定していることは評価できるが、ビジョンを達成する取組み内容の構築には至っていないため、今後の発展展開が望まれる。また、取組み内容の指標についても実績を把握できるように改善が望まれる。

4. 【国際化】

① 現状の説明

【国際化】では「東京オリンピック・パラリンピックとその後に向けた区内での国際化対応の向上による世田谷の魅力度上昇を目指す。」ことをビジョンに掲げている。

そのビジョンを達成するための取組み内容としては、「国際感覚の醸成」を行うことにしている。

2017 年度については、中長期計画を策定している。

② 長所・特徴

- 東京オリンピック・パラリンピックでは、アメリカ合衆国のホストタウンになっており、多くの訪日観光客が見込まれる。既に世田谷区と区内大学との連携の中で、国際化プロジェクトが進められている。

③ 課題・問題点

- 現段階では中長期計画の策定にとどまっているため、次年度から実行に移していく必要がある。また、取組み大学を増やしていく必要がある。

④ まとめ

東京オリンピック・パラリンピックに向けて、訪日観光客が増えている中、区内での国際化対応の向上による世田谷の魅力度上昇を推進するために国際化プロジェクトが進められている。今年度策定された中期事業計画を基に、今後の展開が期待できる。

5. 【大学等の連携】

① 現状の取組み

【大学等の連携】では「世田谷区内にある大学等が連携を強化し、学生の成長の支援体制を強化するとともに、世田谷区で学ぶことの魅力向上を目指す。また、区外の大学等とも連携を図り、世田谷区内にある知財を地方に波及させることを目指す。」ことをビジョンに掲

げている。

このビジョンを達成するための取組み内容として、「プラットフォーム形成校（大学・高専）の連携強化」を行うことにしている。

2017年度については、世田谷6大学コンソーシアムで進められている取組みを基本として、図書館の共同利用や共同のSD研修会、各大学間の単位互換の取組みなどが行われている。また、新たな取組みとして、共同の学生募集活動が行われた。更に次年度に向けて、学生交流プログラム研究会の企画が進められている。

## ② 長所・特徴

- 以前より交流のある世田谷6大学コンソーシアムの構成大学が中心となり、世田谷PFを形成している。地理的にも近い距離にある6大学で構成されていることから、連携体制が取りやすい特徴がある。
- 構成している6大学は全てが私学であり、それぞれ特徴のある大学となっている。各大学の教員の専門分野は幅広く、6大学が集まることで学術分野マップをほぼ全域をカバーしている。
- 共同SDや共同学生募集活動などの取組みが先行して行われており、連携体制が構築されている。

## ③ 問題点

- 構成大学が6大学にとどまっているため、参画する大学を増やす取組みや入会しやすい仕組み作りが必要である。
- 共同の単位互換科目数を増やす取組みや共同の教育プログラムを開発する取組みなど、教学に関わる課題解決を行う体制が構築されていないため、今後の充実が望まれる。
- 新たな取組みとして学生交流プログラム研究会の企画が進められているが、中長期計画の活動指標に組み込まれていないため、計画に反映するなどの対応が必要である。

## ④ まとめ

世田谷PFの【大学等の連携】の取組みは、既存の世田谷6大学コンソーシアムを中心に進められていることから、図書館の共同利用や共同のSD研修会、各大学間の単位互換の取組みなど、良い連携体制が構築されている。また、新たな取組みとしては、共同の学生募集活動の取組みが始まっており、益々の活性が望まれる。その他にも学生交流プログラム研究会の取組みが進められており、更なる大学間連携の強化が期待される。

しかしながら、6大学以外の大学が参画しやすい仕組みがないなどの問題点もあるため、今後の中長期計画の展開に期待したい。

2018年9月25日  
世田谷プラットフォーム協議会